



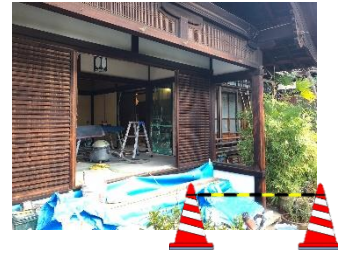
じしゅう どうこうさん

時宗 東岡山 福田寺

【ホームページ運営中!】

<https://kyoto-fukudenji.com/>

～今月のおことば～

しょうじ
それ生死に七種の用心あり 宗祖一遍上人現在、表玄関・大
広間の改修工事を
行っています

“ 一息生死 ”



明けましておめでとうございます。お年始のご挨拶を申し上げますとともに、謹んで檀信徒の皆様
の平安を御祈念いたします。新元号に変わるこの一年は、何か新たなスタートを切るのにふさわしい予感
がします。

私も恐縮ですが、この度良縁に結ばれて、結婚式を4月13日に執り行うこととなりました。まだお
伝えできていないお檀家様もいらっしゃると思いますので、改めてこのお便りでご報告させていただきます。

さて、新年が始まったわけですが、12月31日には一年の終わりが来ます。ずいぶん気が早い話で
すがご容赦ください。当然、一年であれ、一か月であれ、期間を区切れば必ず始まりと終わりがありま
す。一遍上人は七種の始まりと終わり(生と死)を説かれました。つまり生と死についての心構えです。

「一期(一生)」「一年」「一月」「一日」「一時」「一念」「一息」というように期間を区切り、「一
息」には吐く息(生)、吸う息(死)があり、「一念」は念仏の始めと終わりをそれぞれ生死であると考え
ます。だんだん期間が伸びていき最後は「一生」へと行きつきます。「一日一生」でもあり、「一年一
生」でもあります。一遍上人は生と死というものを「一期」に限らず、刻々と過ぎる“今”その瞬間に感じ
なければならぬとおっしゃられたのです。長く感じる生涯も、“今”が連続してやってくる、だからこそ今と
いうひと時を、念仏を通して懸命に過ごすことが大切なのです。臨終間際の念仏ではなく、日ごろからの
“平生念仏”を強調されているのは、この心構えからも理解できます。

『阿弥陀経』には「聞説阿弥陀仏 執持名号 若一日 若二日 若三日 若四日 若五日 若
六日 若七日 一心不乱」とあり、一日ないし七日間、念仏を称えれば、ご来迎があり極楽往生が叶
うとあります。この七日間を先ほどの七種の生死と考えると、お経も身近に考えていただけるのではない
でしょうか。

本年も檀信徒の皆様とともに、念仏への感謝をもって過ごしたいと存じます。 合掌

年間行事予定

- ・ 1月13日…総代会
- ・ 3月22日 14時…春季彼岸施餓鬼法要 (加薬ご飯弁当のお振舞いをします)
- ・ 4月13日 11時…副住職結婚式
- ・ 4月13日～6月9日…御遠忌特別展「国宝一遍聖絵と時宗の名宝」(京都国立博物館)
↑ 当山の御本尊阿弥陀如来像が5月14日～6月9日まで出陳されます!
- ・ 5月26～28日…総本山団体参拝 (京都の時宗寺院合同/ご希望の方に詳細をご案内します)
- ・ 9月22日 14時…秋季彼岸施餓鬼法要 (加薬ご飯弁当のお振舞いをします)

